

# 第Ⅱ章

**平成30年度及び  
令和元年度施策評価**

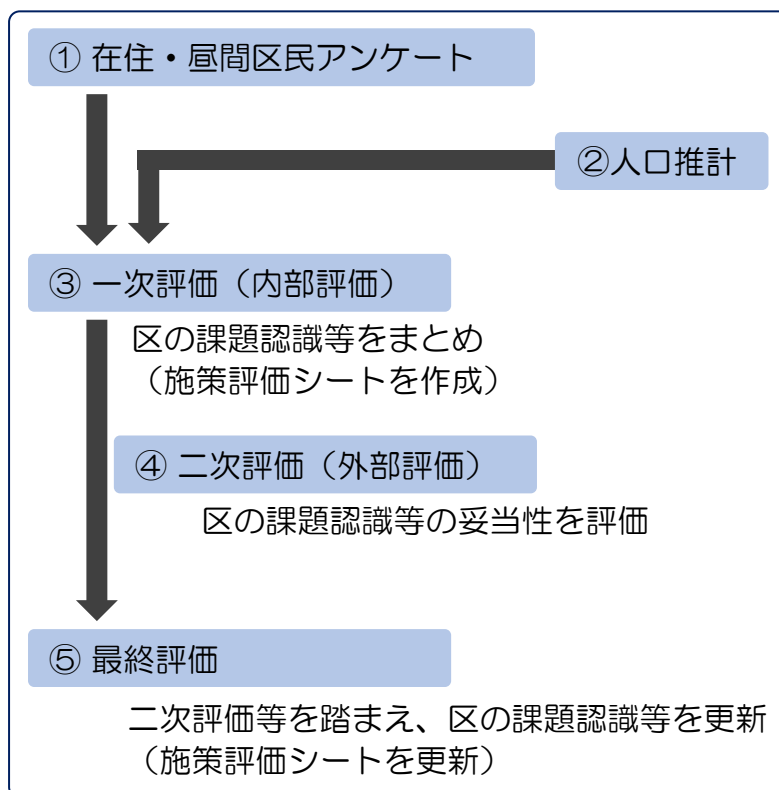


## 1 概要

平成30年度及び令和元年度に実施した今回の施策評価は、ちよだみらいプロジェクトの進捗管理を行い、施策の実行性を高めることに加え、ちよだみらいプロジェクトの見直しとして、社会情勢の変化等を踏まえた各施策の課題認識や取組みの方向性等を変更する必要があるかについても確認することとした。評価は、区の自己評価として一次評価を実施した上で、評価結果の妥当性・客観性を高める観点等から学識経験者による二次評価を実施した。その後、二次評価における意見等を参考に、最終的な区の課題認識等を施策評価シートとしてまとめた。

また、評価の実施にあたり、区民の視点や意識を把握するため、在住区民及び昼間区民を対象としたアンケート調査を実施した。さらに、国勢調査結果などの必要なデータが更新されたことを踏まえ、想定人口を把握するため実施した人口推計についても、社会情勢の変化等を捉える一つの要素として活用した。

図表 6 施策評価の流れ



## 2 在住区民及び昼間区民アンケートの実施

### (1) 実施概要

施策評価の実施にあたり以下のとおりアンケートを実施した。

図表 7 在住区民アンケート実施概要

調査項目	○ 回答者属性 ○ 今後の定住意向 ○ 区政に対する満足度・重要度 ○ ちよだみらいプロジェクトの指標等に関する調査 など
調査方法	○ 郵送配付、郵送回収
抽出条件	○ 平成30年10月2日現在の住民基本台帳から、千代田区在住の満18歳以上の男女の内、4,000名を居住地区、年齢別に層化したのち無作為抽出
調査期間	○ 平成30年10月19日（金）～同年11月9日（金）
回収結果	○ 有効回答数：1,560（回収率：39.0%）

図表 8 昼間区民アンケート実施概要

調査項目	○ 回答者属性 ○ 区政への参加状況・参加意向 ○ ちよだみらいプロジェクトの指標等に関する調査 ○ 区政に対する満足度・重要度 など
調査方法	○ WEB調査
抽出条件	○ 千代田区在勤・在学者のインターネットアンケートモニター1,000名
調査期間	○ 平成30年10月31日（水）～同年11月5日（月）

### (2) 結果概要

#### ① 在住区民アンケート

- すべての施策において、「満足（やや満足含む）」又は「重要（まあ重要含む）」と回答した者が、「不満（やや不満含む）」又は「重要ではない（あまり重要ではない含む）」と回答した者よりも多かった。（次ページ図表9参照）
- 「12地球に優しい環境づくりを進めます」及び「13資源循環型都市をめざします」を除くすべての施策で、平成28年度調査時と比較して、満足度の上昇（維持含む）が見られた。（今回及び前回それぞれの結果を加重平均し比較）

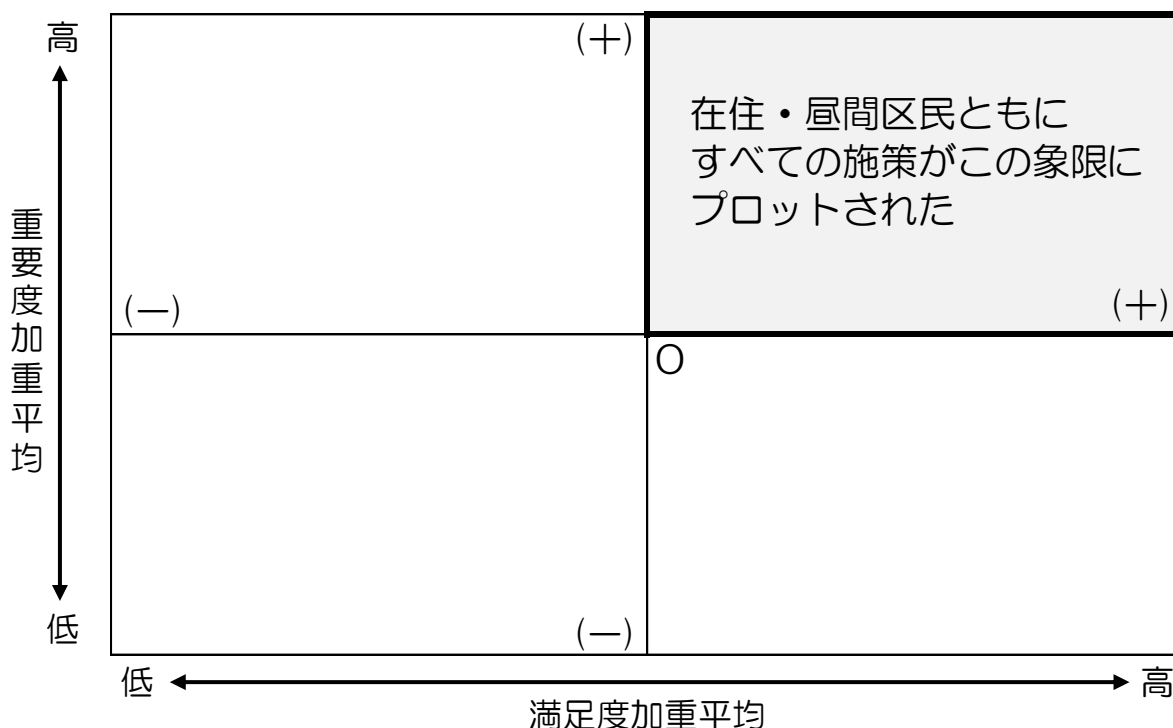
※ 詳細については、P155参照

## ②昼間区民アンケート

- すべての施策において、「満足（やや満足含む）」又は「重要（まあ重要含む）」と回答した者が、「不満（やや不満含む）」又は「重要ではない（あまり重要ではない含む）」と回答した者よりも多かった。（図表9参照）
- 「4清潔で、風格ある、安全・安心なまちづくりを進めます」、「8地域ごとの特性を踏まえた景観を守り育て、千代田区の魅力を高めます」及び「35国際交流・協力や平和活動を推進します」を除くすべての施策で、平成28年度調査時と比較して、満足度の上昇（維持含む）が見られた。（今回及び前回それぞれの結果を加重平均し比較）

※ 詳細については、P171参照

図表 9 在住・昼間区民アンケート結果概要



※ 「満足・重要：1点」「やや満足・まあ重要：0.5点」「やや不満・あまり重要ではない：-0.5点」「不満・重要ではない：-1点」「わからない：0点」とし、それぞれの回答者数を掛け合わせ、その合計点を項目ごとの全回答者数で割った「加重平均」を行いプロット

### 3 人口推計の実施

#### (1) 実施概要

国勢調査やその他の人口推計に必要なデータが更新されたことを踏まえ、以下のとおり人口推計を実施した。

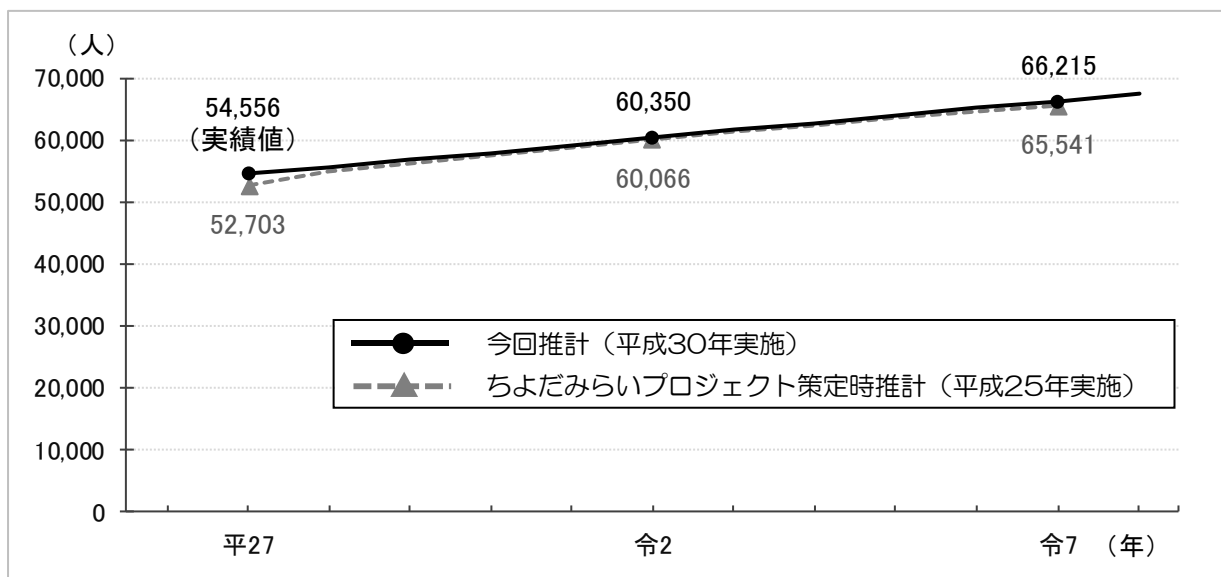
図表 10 人口推計実施概要

推計期間	平成27年から50年間
基準人口	平成27年国勢調査における千代田区の日本人人口 (平成27年10月1日時点)
推計方法	<p>コーホート要因法（平成25・27年実施の推計と同様の方法）</p> <p>〔 将来の自然増減要因（出生、死亡）と将来の社会増減要因（転入、転出）を個別に設定し、各コーホート（同期間に出生した集団）の将来人口を推計する方法 〕</p>

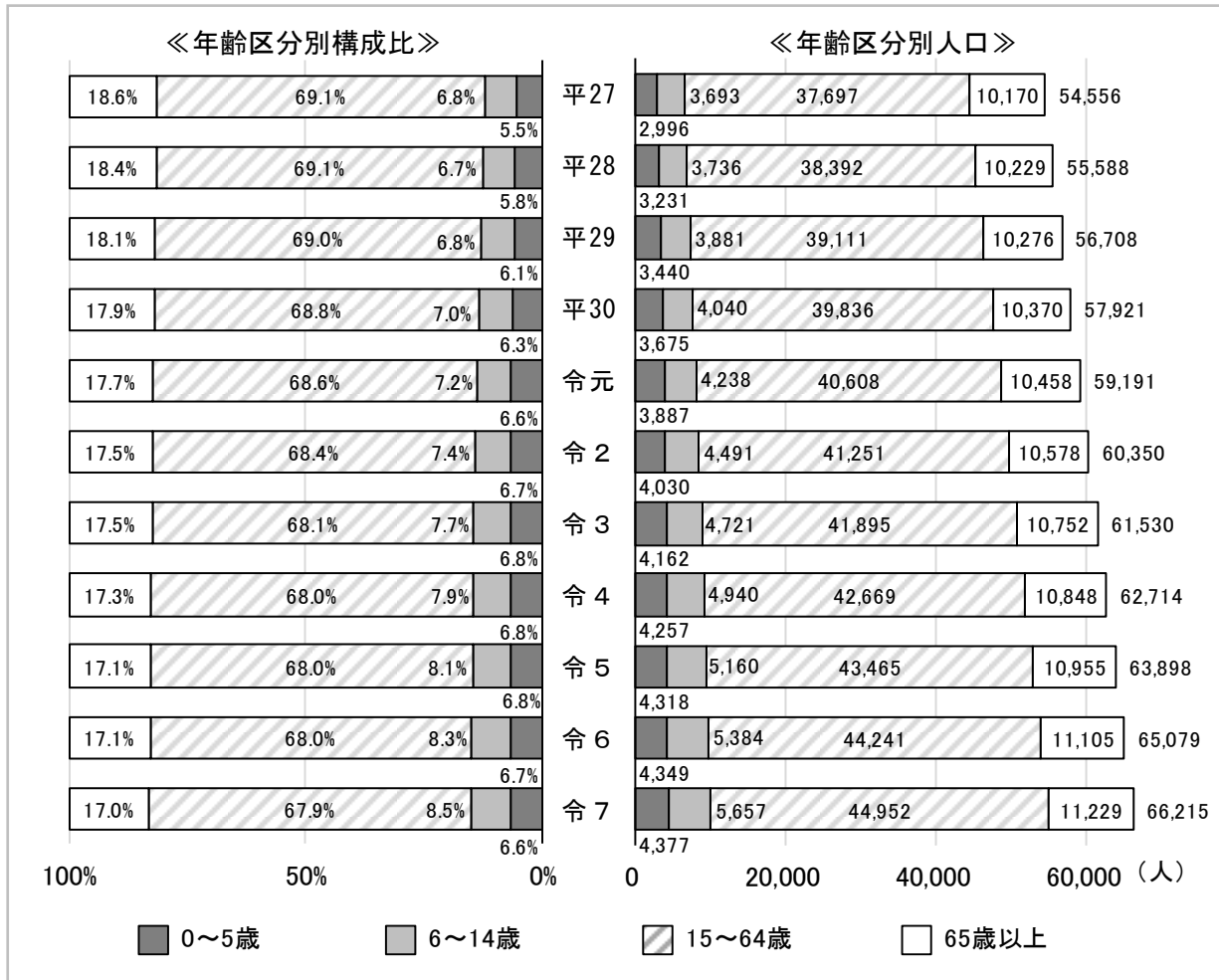
#### (2) 結果概要

- 今回実施した推計と、ちよだみらいプロジェクト策定時の推計（以下「平成25年推計」という。）を比較すると、傾向に大きな差異はなかった。
- 年齢区分別にみると、いずれの年齢区分も増加していくものの、平成25年推計と比較すると、若干の差異がみられ、0～5歳区分は平成25年推計よりも多く、65歳以上区分は平成25年推計よりも少ない結果となった。

図表 11 平成 30 年度人口推計結果（全体）

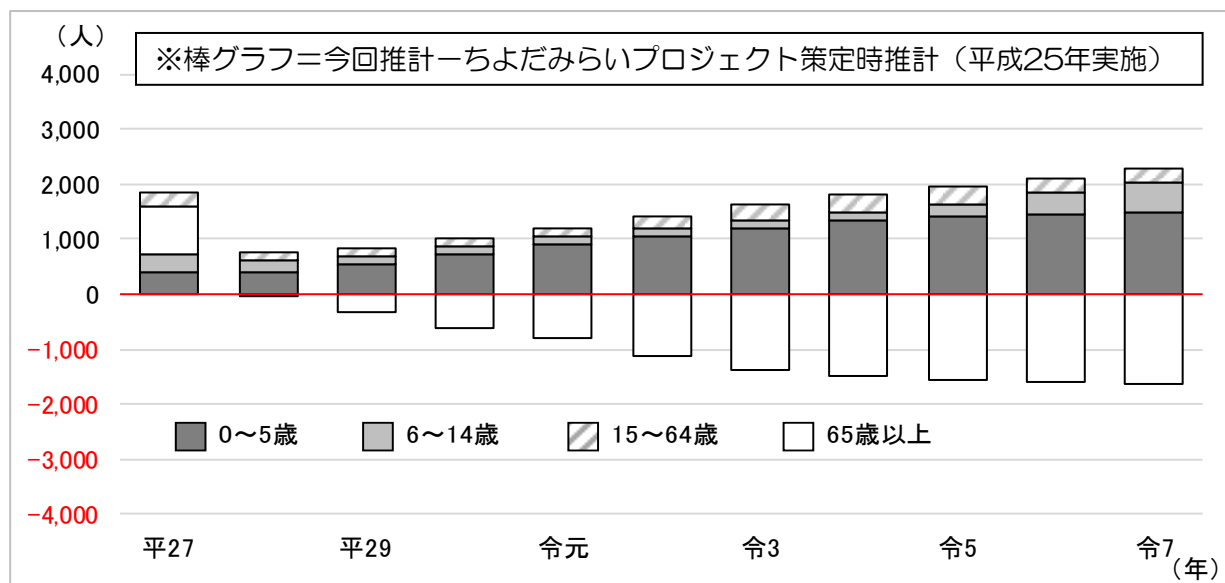


図表 12 平成 30 年度人口推計結果（年齢区分別）



※構成比は四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある。

図表 13 平成 30・25 年度人口推計結果比較（年齢区分別）



※詳細な結果は、P 189 参照

## 4 一次評価の実施

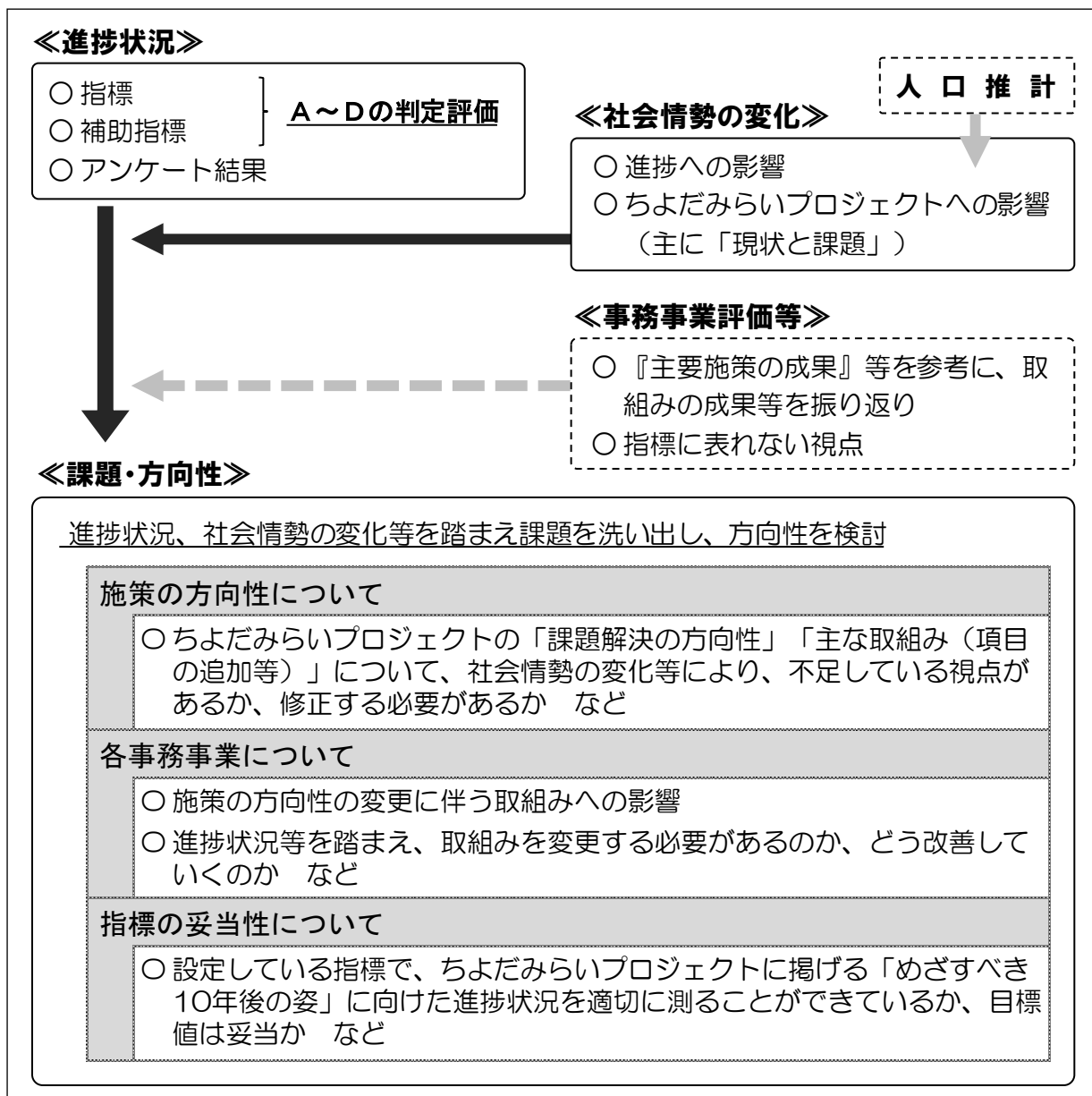
### (1) 対象施策

平成30年度、区の自己評価として、ちよだみらいプロジェクトのすべての施策を対象に、評価を実施した。

### (2) 評価方法及び評価視点

各施策を所管する部・課において、指標の進捗状況や区民アンケートの結果、社会情勢の変化、さらには、毎年度の事務事業評価等を踏まえ、以下の視点から課題や取組みの方向性をまとめた。なお、指標の進捗状況については、基準を設け、その達成度に応じてA～Dの判定評価を行った。

図表 14 一次評価の視点と流れ



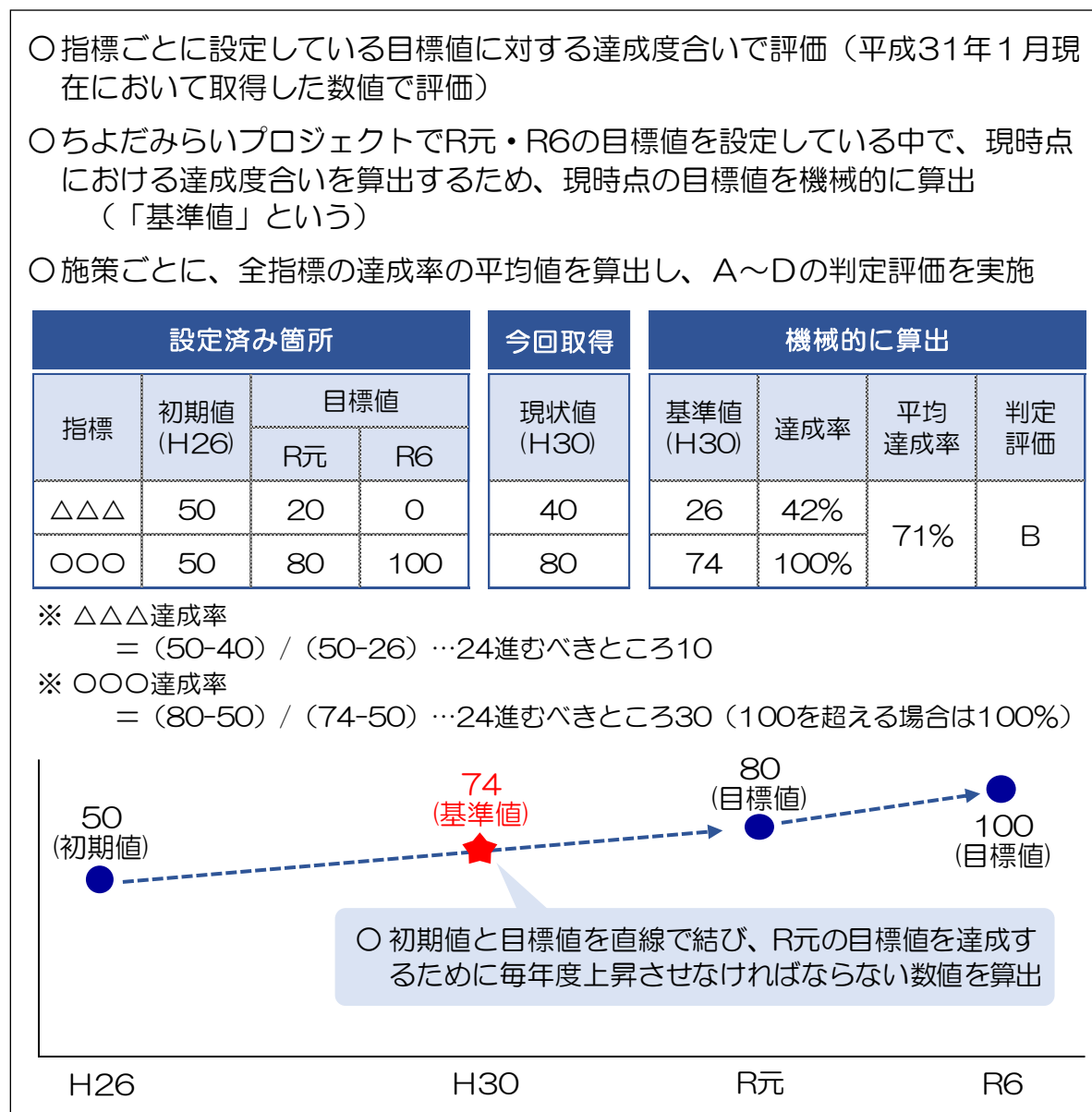


### (3) 指標の判定評価

施策の進捗状況の評価は、本来、指標を用いた評価だけでなく、指標に表れない成果も含めて総合的に行うべきものであるものの、ちよだみらいプロジェクトにおいて各施策の実現度を定量的に評価するために指標が設定されていること、また、進捗状況を対外的にわかりやすくする観点から、進捗状況を測る一つの方法として、指標の達成状況に応じた評価を実施した。

評価は、施策ごとに指標の達成率を算出し、その達成率に応じてA～Dの判定評価を実施した。指標の達成率の算出方法及び判定評価にあたっての基準は下図のとおりである。なお、評価にあたっては、平成28・29年度に実施した1サイクル目の施策評価を踏まえ、より進捗状況を的確に把握するために設定した補助指標も用い評価した。

図表 15 指標の達成率の算出方法



図表 16 判定評価の基準

判定評価	基準
A (順調)	100%
B (概ね順調)	70%以上 ~ 100%未満
C (やや遅れている)	30%以上 ~ 70%未満
D (遅れている)	30%未満

#### (4) 評価結果

評価については、様式（施策評価シート）を定め、施策ごとに課題や方向性等をまとめた。（図表22『施策評価シート』（P28））

## 5 二次評価の実施

### (1) 行政評価委員会の設置

令和元年度、評価の客観性・妥当性を高めるとともに、区だけでは発見できない課題や解決策などについて施策の実効性を高めていくための参考とすることを目的に、行政評価委員会を設置し、第三者の視点から意見をいただいた。

行政評価委員会は、1サイクル目の二次評価から引き続く5名の委員を委嘱した。1サイクル目では、「評価結果を今後の行政運営につなげる」という行政評価の趣旨をより明確化させるため、学識経験者だけでなく、区長をはじめとする区職員も含めて行政評価委員会を設置したが、今回は庁内検討会を設置しており、外部評価における意見の受け止めを行う体制整備がなされていることなどを踏まえ、学識経験者のみで構成した。

図表 17 行政評価委員会名簿

令和元年6月21日現在

職	氏名	所属等
委員長	出雲 明子	東海大学 政治経済学部 政治学科 准教授
副委員長	朝日 ちさと	首都大学東京 都市環境学部 都市政策科学科 教授
委員	谷本 有美子	公益社団法人神奈川県地方自治研究センター 研究員
委員	松井 望	首都大学東京 都市環境学部 都市政策科学科 教授
委員	武藤 博己	法政大学大学院 公共政策研究科 教授

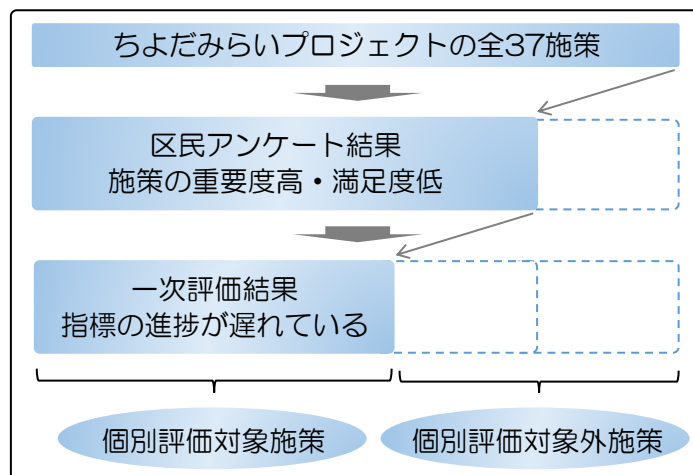
※千代田区行政評価委員会設置要綱第5条に基づき、委員長は委員の互選により、副委員長は委員長の指名により決定された。

※役職・五十音順

## (2) 評価対象

ちよだみらいプロジェクトの全施策を対象に、行政評価委員会で意見をいただいた。評価は、「個別に時間を設け評価を行う施策(以下「個別評価対象施策」という。)」と、「個別に時間を設けずまとめて評価を行う施策(以下「個別評価対象外施策」という。)」に区分し実施した。個別評価対象施策は、区民アンケート結果及び指標の進捗状況を踏まえて抽出した。

図表 18 二次評価における個別評価対象施策絞り込みの考え方

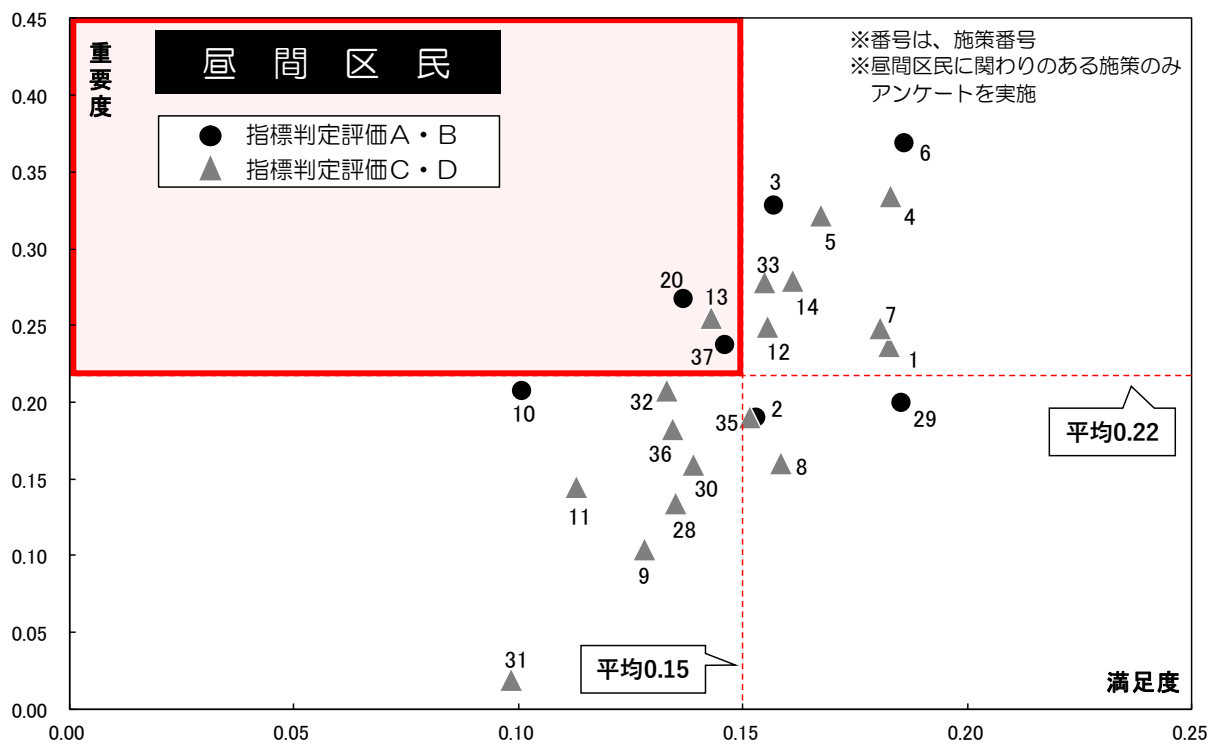
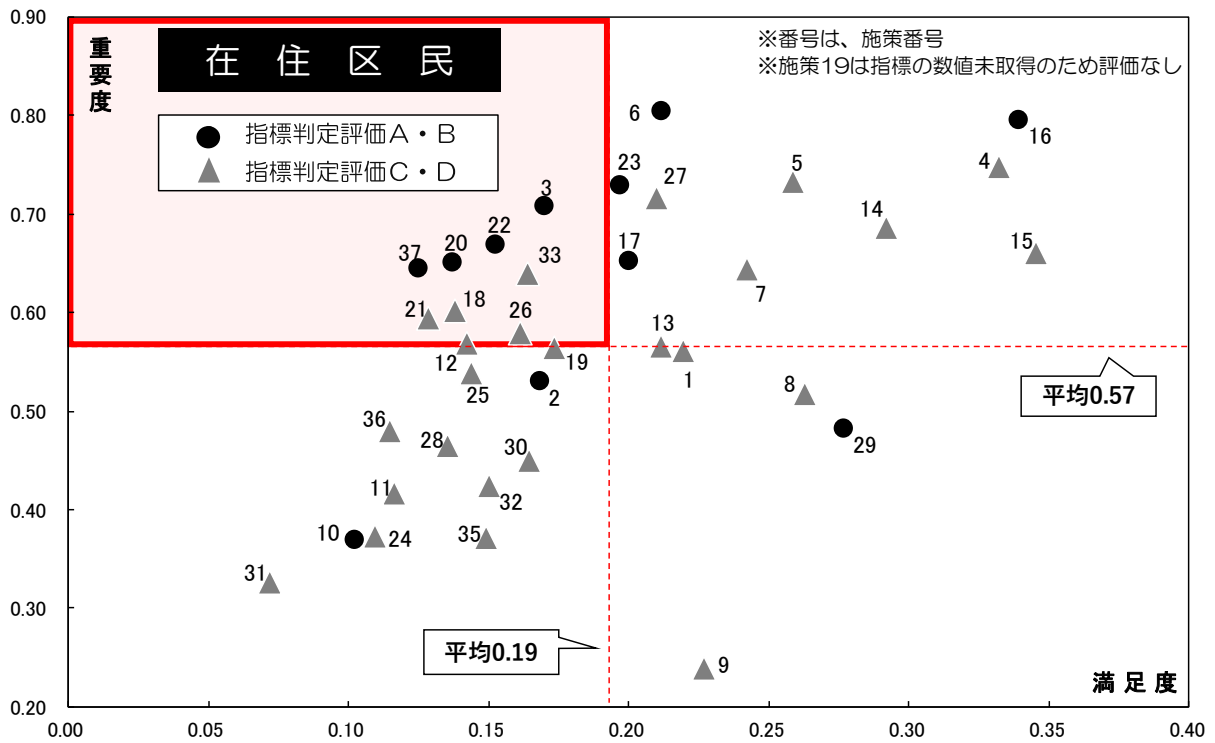


具体的には、まず、区民アンケート結果について、満足と回答した者の数や不満と回答した者の数などに応じて各施策の点数を算出し、満足度・重要度それぞれの平均値と比較した。その結果、重要度が平均値より高く、満足度が平均値より低いものをさらに抽出した。次に、抽出された施策のうち、進捗が思わしくないものとして、一次評価で指標を用いて実施した判定評価がC又はDの施策をさらに抽出した。この抽出方法を示したものが図表19であり、アンケート結果の重要度を縦軸に、満足度を横軸に各施策をプロットし、加えて、指標の判定評価に応じてプロットする記号を変えている。この中で二次評価の個別評価対象施策となるのは、4つの象限のうち左上の象限にプロットされ、かつ、記号が「▲」のものである。

この抽出方法は、区民アンケートで全施策がプラスの結果（「満足（やや満足含む）」と回答した者が、「不満（やや不満含む）」と回答した者よりも多かった。）となった中で、施策全体の推進の底上げを行っていくことを重視したものである。

その結果、図表20のとおり6つの施策を個別評価対象施策とした。

図表 19 アンケート結果及び指標判定評価を用いた個別評価対象施策の絞り込み



図表 20 二次評価における個別評価対象施策

No	施策
12	地球に優しい環境づくりを進めます
13	資源循環型都市をめざします
18	認知症高齢者を地域で見守り、支えるしくみを強化します
21	障害者の就労を支援します
26	グローバル社会で活躍する資質・能力を育て、主体的・協働的・創造的に生きる力を身に付ける質の高い教育を進めます
33	人権侵害のない社会をめざします

### (3) 評価の視点

区が実施した一次評価の妥当性を評価するものとした。具体的には、①ちよだみらいプロジェクトの10年後の姿に向けた進捗状況や課題、今後の方向性の区の認識に対する意見、②ちよだみらいプロジェクトの「課題解決の方向性」「主な取組み」「指標」等の妥当性の区の認識に対する意見をいただいた。

### (4) 評価方法

二次評価では、区の自己評価である一次評価を踏まえ、区に不足している視点や今後注意したほうがよいと思われる視点などに意見をいただく評価方法を採用した。これは既に一次評価で判定評価を行っていることもあり、進捗状況の判定評価を主観的に行うことよりも第三者の視点からの意見を可能な限り引き出し、課題や問題点を具体的に浮き彫りにすることを優先したものである。また、評価にあたっては、必要に応じて施策を所管する部課長とのディスカッション形式により進めた。

### (5) 評価の実施

行政評価委員会を図表21のとおり開催し評価を実施した。

図表 21 行政評価委員会開催実績

開催回数・日時	議題
<p>第1回 7月22日（月） 午後1時半～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 委員長及び副委員長の選任</li> <li>● 評価の進め方について</li> <li>● 個別評価対象施策の評価               <ul style="list-style-type: none"> <li>18 認知症高齢者を地域で見守り、支えるしくみを強化します</li> <li>21 障害者の就労を支援します</li> <li>26 グローバル社会で活躍する資質・能力を育て、主体的・協働的・創造的に生きる力を身に付ける質の高い教育を進めます</li> <li>33 人権侵害のない社会をめざします</li> </ul> </li> </ul>
<p>第2回（1名欠席） 7月26日（金） 午前9時半～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別評価対象施策の評価               <ul style="list-style-type: none"> <li>12 地球に優しい環境づくりを進めます</li> <li>13 資源循環型都市をめざします</li> </ul> </li> </ul>
<p>第3回 8月7日（水） 午後1時半～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別評価対象外施策の評価</li> <li>● その他（基本計画や施策評価のあり方等）</li> </ul>

※委員については令和元年6月21日に委嘱

## （6）評価結果及び評価の活用

全体を通じて、社会情勢の変化を十分に捉えられていないといった指摘はなく、社会情勢の変化等を踏まえた、ちよだみらいプロジェクトの見直しにおける区の認識としては概ね妥当という結果となった。一方、指標の妥当性に関する意見が多かったため、指標の設定と進捗状況の把握・分析に関して検討を行うこととした。また、具体的な取組みの視点や進め方などに関する意見も多くあった。（行政評価委員会からの意見は、P227参照。）

今回の二次評価は、区の自己評価である一次評価でまとめた施策評価シートに対し、その妥当性について意見をいただいたものである。そのため、いただいた意見のうち、現行計画や施策評価シートにない視点等で、区の認識として追加すべきものについては、二次評価後、施策評価シートに反映し、最終評価としてまとめた。

施策評価シートに反映したものはもとより、現時点においては反映しなかった意見や個々の事業の進め方に係る個別具体的な意見等についても、予算や執行体制の改善を図る際に有効に活用するなど、各施策をより一層推進する上での参考としていく。さらに、基本計画や施策評価のあり方等に関する意見もいただいたため、今後の計画改定や評価制度再構築の際に活用していく。